

# 九州地域における海上雑貨 輸送実態調査報告書

昭和 58 年 3 月

財団法人 九州海運振興センター

## 刊 行 に あ た り

長距離カーフェリーによる海上雑貨輸送は、地域経済社会の動向、産業の推移によって絶えず影響をうけ、これに適応していかなければならない立場にある。しかも、内航近代化船、鉄道、陸上走行のトラックが同じ活動領域に属しており、限られたパイをめぐるこれらの輸送機関と競い合わなければならない宿命を負っている。

こうした環境条件のもとで、九州～阪神・京浜間に就航する長距離カーフェリーは、いま大きな転機に立っている。

すなわち、低成長経済下にあつて、総体としての輸送量及びそのモビリティは伸び悩みの傾向にあり、これに伴い、他の雑貨輸送機関や同一圏域内における他の長距離カーフェリーとのつばぜり合いもいちだんと激しさを増してきている。

折から、かなりのインパクトが予想される中国縦貫自動車道の全線開通もこの3月24日に予定されており、九州～阪神・京浜間の長距離カーフェリーは、これらいくつかの制約要因のなかで、今後どのような方向に進むべきか— いま、まさに将来への選択を迫られている。

本調査は、このような情勢をうけて、長距離フェリーの関係者が現状をどう認識し、次の時代の展望をどう持つかといった考察、研究等を行うに際し、一つの判断材料を提供するために意図されたものである。

本報告書のとりまとめにあたっては、前回作成した「省エネルギー下におけるカーフェリー及び内航革新船の役割と機能分担に関する研究（中間報告）資料編」のいわば続編としての性格を持たせることに留意しつつ、より充実させることを心がけ、また、粗いタッチながら若干の加工分析も試みた。

数少ないスタッフ、限られた時間などの制約をうけ、必ずしも満足すべき内容にはなっていないが、いささかでも関係者の参考になれば— というのが私どもの願いである。

なお、長距離カーフェリーの実態調査にあたっては、各関係事業者から直接間接にわたり積極的なご協力をいただき、得がたい資料をうる事ができた。また、参考資料として収録した陸上関係の資料は、福岡陸運局、国鉄九州総局及び門司鉄道管理局、日本道路公団大阪管理局の格別のご厚意によった。ここにあらためて厚く感謝の意を表すしだいである。

昭和58年3月

編集責任者 九州海運局運航部輸送課長 南 照 雄

「九州地域における海上雑貨輸送実態調査報告書」

一 編 集 担 当 者 一

九州海運局運航部輸送課長	南	照	雄
九州海運局運航部輸送課補佐官	山	口	迪
九州海運局運航部輸送課流通企画係長	赤	間	啓一
(財)九州海運振興センター専務理事	松	尾	勝
(財)九州海運振興センター調査役	松	下	勝

# 目 次

## 第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査内容	2
4. 調査方法	2

## 第 2 章 調査結果の概要

1. 自動車航送状況の概要	5
(1) 自動車航送実績	5
(2) 上り・下り別航送実績	5
2. 貨物自動車航送実態調査結果の概要	6
(1) 車長別航送実績	6
(2) 最大積載重量別航送実績	6
(3) 車両タイプ別航送実績	7
(4) 業態別航送実績	8
(5) 有人車・無人車別航送実績	8
(6) フェリーターミナル到着時間	9
(7) 航送利用率	10
(8) 発着地別貨物自動車航送台数	12
(9) 貨物自動車航路別県別利用状況	16
(10) 発着地別貨物輸送量	22
3. 乗用自動車航送実態調査結果の概要	26
(1) 車長別航送実績	26
(2) 車両タイプ別航送実績	26
(3) 有人車・無人車別航送実績	27
(4) 航送利用率	28
(5) カーフェリー利用目的別航送台数	29
(6) 発着地別乗用自動車航送台数	30

(7) 乗用自動車航路別・県別利用状況	34
---------------------	----

### 第 3 章 調査結果集計表

1. 総括表	41
表 3-1-1 航送実績総括表	42
表 3-1-2 曜日別航送実績	44
2. 貨物自動車航送実態調査結果集計表	53
表 3-2-1 貨物自動車車長別航送台数	54
表 3-2-2 貨物自動車最大積載重量別航送台数	56
表 3-2-3 貨物自動車車両タイプ別航送台数	56
表 3-2-4 貨物自動車車両タイプ別、上り下り別航送台数構成比	58
表 3-2-5 貨物自動車業態別航送台数	60
表 3-2-6 貨物自動車業態別有人車・無人車別航送台数	62
表 3-2-7 貨物自動車業態別ターミナル到着時間別航送台数	64
表 3-2-8 貨物自動車航送利用率	68
表 3-2-9 発着地別貨物自動車航送台数	70
表 3-2-10 発着地別貨物輸送量	86
表 3-2-11 品目別貨物輸送量（発貨物）	102
表 3-2-12 品目別貨物輸送量（着貨物）	108
3. 乗用自動車航送実態調査結果集計表	115
表 3-3-1 乗用自動車車長別航送台数	116
表 3-3-2 乗用自動車車両タイプ別航送台数	118
表 3-3-3 乗用自動車有人車・無人車別航送台数	120
表 3-3-4 乗用自動車航送利用率	124
表 3-3-5 乗用自動車カーフェリー利用目的別航送台数	126
表 3-3-6 発着地別貨物自動車航送台数	128

### 参 考 資 料

1. 長距離カーフェリー関係	145
表 4-1-1 長距離カーフェリーの概況（全国）	146

表 4-1-2	長距離カーフェリーの概況（九州）	148
表 4-1-3	長距離カーフェリー輸送実績の推移	150
表 4-1-4	長距離カーフェリー月別輸送実績	152
表 4-1-5	長距離カーフェリートラック有人車・無人車航送実績 の推移	162
表 4-1-6	長距離カーフェリー有人車・無人車航送実績 （昭和56年度）	164
別表	貨物自動車運送事業者の長距離カーフェリー利用状況 調査結果（福岡陸運局調べ）	166
2.	内航近代化船関係	173
表 4-2-1	内航コンテナ船、ロールオン・ロールオフ船の概況 （全国）	174
表 4-2-2	内航コンテナ船、ロールオン・ロールオフ船の概況 （九州）	176
表 4-2-3	内航コンテナ船、ロールオン・ロールオフ船輸送実績の 推移（北九州～京浜）	176
表 4-2-4	内航コンテナ船、ロールオン・ロールオフ船月別輸送実 績（北九州～京浜）	178
表 4-2-5	外航海上コンテナ・フィーダー輸送船の概況（九州）	180
表 4-2-6	外航海上コンテナ・フィーダー輸送実績の推移 （北九州～阪神）	180
表 4-2-7	外航海上コンテナ・フィーダー機関別輸送実績の推移 （北九州～阪神）	182
3.	鉄道関係	185
表 4-3-1	国鉄コンテナ取扱駅の概況	186
表 4-3-2	フレートライナー運行形態 （九州～阪神・中京・東海・京浜）	188
表 4-3-3	国鉄コンテナ輸送実績の推移	190
表 4-3-4	国鉄コンテナ輸送実績（昭和56年度・九州発着）	190
表 4-3-5	国鉄コンテナ貨物運賃・料金	192

4. 自動車関係	197
表 4-4-1 地域別貨物自動車保有台数の推移	198
表 4-4-2 積載量別貨物自動車保有台数の推移（全国）	200
表 4-4-3 貨物自動車事業者の概況	202
表 4-4-4 路線トラック地域別貨物輸送量（昭和56年10月）	204
表 4-4-5 区域トラック地域別貨物輸送量（昭和56年10月）	206
表 4-4-6 路線トラック品目別貨物輸送量（昭和56年10月）	208
表 4-4-7 路線トラック運賃・料金	212
表 4-4-8 区域トラック運賃・料金	222
5. 高速道路関係	229
図 4-5-1 高速自動車道図	231
表 4-5-1 高速道路車種別全線平均交通量（日平均）の推移	234
表 4-5-2 高速道路車種別通行台数（日平均）の推移	236
表 4-5-3 高速道路自動車通行量（昭和57年10月実績）	238
表 4-5-4 高速道路主要区間料金表	240
表 4-5-5 高速道路通行料金別納制度の概要	242
6. 調査票	245

詳細は当センターへお問合せ下さい

(財)九州運輸振興センター

電話 : 092-451-0469

e-mail : [info@kyushu-transport.or.jp](mailto:info@kyushu-transport.or.jp)